



第25号

発行日 平成31年4月吉日(2019)
 発行者 新潟産業大学校友会
 責任者 内山和博
 編集 新潟産業大学校友会事務局
 新潟県柏崎市軽井川4730番地
 TEL0257-24-8444(直通)
 FAX0257-24-8444

本部定期総会が開催される

去る平成30年10月20日(土)に新潟市の新潟東映ホテルで3年毎に開催される本部定期総会が開催されました。

本部定期総会を開催するにあたり、開催場所が柏崎市から新潟市に変更される関係から平成29年度より、本部主催の本部役員会議・支部長事務局長会議等に趣旨説明と各支部の積極的な取組のもとに開催準備を進めました。

併せて開催時期を11月から10月に変更した関係で出席数の確認を各支部に再三お願いして出席者の増加を求めました。

特に、新潟市で開催するという関係上新潟支部の全面的な協力を求めました。

更に、青年部の役員からも協力をお願いし目標の150名には達成しなかったが県内各地はもとより県外からも校友会会員が130名出席して開催しました。

来賓に、星野学長・梅比良副学長(柏専学院理事長)・蓮池准教授(講演会講師)・加藤事務局長・小栗旧

教職員・中沢旧教職員が出席しました。

講演会・懇親会に前学長で名誉

学長 北原先生もお忙しいなか出席されました。

当日は、第1部の定期総会が13時から30分間開催されました。

主なる内容は小栗会長を議長に審議が進み、事業内容・財産目録の報告・事業計画(平成30年度)・収支予算実績表(平成30年8月末)の説明があり承認となりました。次に議長交代で役員改選の審議であり現会長小栗俊郎が勇退し、新会長内山和博が推薦され承認されました。新会長の紹介があり定期総会は終了となりました。

第2部は、講演会



総会の風景

であります。講師は新潟産業大学准教授 蓮池薫先生です。
 演題は、「動く北朝鮮情勢と拉致

問題」で約70分間講演をしていただきました。

内容は、

1. 北朝鮮をめぐる情勢

会場の会員の皆さんはどんなお話なのかと真剣な姿勢で聞いておりました。北朝鮮が米国の対話に応じた背景は何か、今日までの制裁・圧迫による変更なのか。今後の経済発



来賓の皆様

たのでご覧ください。

第3部は会員の皆さん及び来賓者の懇談会である懇親会であります。

懇親会は、上越支部 新潟産業大学第5期生 風間昌子さんの司会で始まりました。来賓の北原名誉学長のご挨拶、来賓紹介、乾杯は梅比良副学長の音頭で楽しい時

展のための変更なのか。更に北朝鮮は本当に非核化へ進む意思があるのか。最近の北朝鮮の動きはどうなのか。アメリカは今後も北朝鮮と対話していくのか。以上の概要ですが、大変勉強になりました。

2. 拉致問題

わが国日本にとって、拉致問題の解決チャンスであり、核問題について解決がないと日本は要注意であり、アメリカに頼らず日本と朝鮮の首脳会談を目指すべきである。

拉致家族も高齢になっており時間がない、今後は情報収集と活用により被害者の帰国に強気になるべきである。

以上が講演会の概要ですが、当日の要旨をのせましたのでご覧ください。



北原名誉学長のあいさつ

間の始まりです。

各テーブルは、短期大学、大学の期別毎に集まり、久しぶりの再会を楽しんでいました。懇親会は2時間でしたが時間が足りない様子でにぎやかでした。

万歳は、青年部副部長 佐藤友則さん、閉会と同じく青年部副部長 白石 聡さんをお願いしました。

終了は17時を過ぎていましたが、会員の皆さんのお帰りを事務局スタッフでお見送りして終了となりました。

この会報の記事で、当日頑張ってくれましたスタッフの皆さん本当にありがとうございました。大変おつかれさまでした。今後もしよろしくお願いたします。

文責 内山和博(事務局)



懇親会の風景

2018.10.20

校友会講演会

「動く北朝鮮情勢と拉致問題」

講師 新潟産業大学准教授

蓮池 薫様

活用

・被害者帰国における北朝鮮の負担軽減

3、拉致事件の真相(1978事件)と北朝鮮での24年

- ・拉致目的
- ・拉致状況
- ・北朝鮮での3つの変化
- ・一時帰国までの経緯

が進展しても日本は正常化に行つてはならないという姿勢。

現在の北朝鮮の姿勢

適切な時期に日本と交渉する(金正恩)

一部報道では「日本に譲歩した」(02の謝罪、横田夫妻をヘギョンに会わせた。報告書を出そうとしたが、日本は受け取らない)

日本政府は日朝首脳会談を目指す

そのための
水面下での接触、方針「連絡事務所、生存者の随時帰国による信頼構築、過去の清算の用意、東京オリンピック参加への協力」



今後の課題

- ・報告書を受け取るべきか
- ・経済協力の具体的なビジョンを示せるかどうか。
- ・日本独自の経済制裁の解除、100億ドルの過去清算、その後の経済借款の供与
- ・生存者情報の収集とその巧みな

しかし、アメリカはそのリスクを避け、中間選挙後と発表。

現在の両国の駆け引き材料

北朝鮮側 豊溪里核実験場の検証 ICBMエンジン発射実験場と発射台の検証の下での廃棄、寧辺核施設の廃棄

ここまででまず、終戦宣言と経済制裁の一部解除を望む

アメリカ側 終戦宣言と経済制裁の緩和であるが、最近まではすべての核関連リストの申告を求めていたが、最近では多少北に歩み寄ったのではないかという見方も

紆余曲折のなか、最初の任期内にそれなりの合意にたどり着くのではないか。

2、拉致問題

・拉致問題解決のチャンス

核・ミサイル・拉致、これらが包括的に解決して国交正常化。過去の清算。これは日朝間の約束だけでなく、アメリカが関係してくる。問題は核・ミサイル問題が解決しなければ拉致問題も解決しないこと、一方で、核・ミサイル問題

1、北朝鮮をめぐる情勢

①北朝鮮が今年から対話局面に入つた背景は。

北朝鮮のもともとの戦略なのか制裁や軍事的圧迫による変化なのか

2013年

恒久的な並進路線を提示

2016年

責任ある核保有国 宣言

2017年

6回目の核実験とICBM完成宣言

2018年

4月

並進路線終結 経済発展に総力を注ぐという新戦略

②北朝鮮に非核化の意志があるのか

非核化へと進む意思はあるが、完全な非核化にまで行くつもりはないのではないか。

アメリカの見返り次第

交渉の駆け引き次第

③北朝鮮非核化をめぐる最近の動き

ここに来て焦りを見せる北朝鮮。トランプの最初の任期の間に決着したい。そのため米朝首脳会談もアメリカの中間選挙前までに第2回米朝首脳会談をしたかった。



講演会の風景



学生に伝えたいこと

新潟産業大学 学長 星野 三喜夫

校友会の皆様、日頃より本学に対しご支援をいただき、心より感謝申し上げます。昭和22年(1947年)の学院開学以来70余年の長い歴史と伝統の上に1万人を超える卒業生を世に送り出してきた本学は、昨年8月、第一学院高等学校や第一ゼミナール等の教育事業を展開するジャスタック上場企業の株式会社ウィザースと業務提携を結びました。第一学院高等学校と本学との高大連携は既に始まっており、本年4月には第一学院高校の生徒が全国から本学に進学してきています。さて、縁あって新潟産業大学に入学し勉強に励んでいる学生諸君に、日頃から

私が伝えていることが二つありますので、今回はそれをご紹介します。

一つは、「時間」への意識です。時間というものを常に意識して大学生活を送って欲しい、ということですが、まだ二十歳前後の若者には中々実感がないのですが、人がこの世で生きる時間は決して長くはないという意識を持って過ごして欲しいのです。やり直しがきかない人生の貴重な時間を、後になって後悔することのないよう、若い人たちが良く使う言葉で言うところの「めちゃ」活用して欲しいと思います。時が経つのは本当に早い。後で振り返って「やれなかった」とか、「やってあげばよかった」と思うことが誰にでもたくさんあります。しかしそれは、「やる時間がなかった」のではなく、時間があったのに「やらなかった」ということです。比較的自由を謳歌できる大学4年間、学生には無為に時間を過ごすことのないようにして欲しい。時間をどのように活かすかは自身の意識と行動にかかっています。

二つ目は、物事をいつも「外から見る」習慣を身に付けて欲しい、ということです。学生は大学での4年間、様々なことを経験します。涙が出るほどの感動や、人生を変えてしまうような素晴らしい本や素敵な人、友人との出会い、苦しい部活の練習の日々などに遭遇します。一方、悩むこと、迷うこともいっぱい出てくるでしょう。そうい

う時はどうしたら良いか。自分を、自分の心を、外から見つめて欲しい。自分という殻に閉じこもらず、自分は、自分が、という自分意識だけではなく、外から自分を見つめる、外から自分の意識を、あたかも幽体離脱のように見つめるようにして欲しいと思います。外から自分を見るようにすれば、自ずとやるべきことや方向性が見えてきます。「外から自分を見る」という意味では、今いる場所を離れて、自分がいる柏崎、中越、新潟県、あるいは日本から、距離を置いてみる、ということも大事です。アルバイトで少しお金を貯めて、短期間でも良いので日本の外に出て、外から日本、新潟県、そしてそこで生活している自分、というものを見つめてみたらどうでしょうか。これまで何となく抱いてきた自分の価値観や考え方がきつと変化すると思います。私自身が経験してきたように、日本を離れると、何と日本は素晴らしい国なのだろうと見直すはずです。

学生の、(1) 時間への意識を常に持って、(2) 意識して自分を外から見ることによって過ごす本学での4年間を、我々教職員一同、一生懸命応援してお手伝いをしています。

本学は、経済学部だけの小さな大学ですが、「地域実践の教育」に重点を置いています。中越地域の柏崎で、フィールドワークを通じて、1年生から4年生まで全学年必修の「地域ゼミ」

に取り組み、地域の産業や文化の振興、地域が抱える課題の解決等に取り組めます。小さな大学であるからこそできる、学生一人ひとりの可能性を引き出すきめ細かい丁寧な教育と、学生生活面の支援、さらには就職活動を強力にバックアップして、学生の「出口満足度」の充実も図っています。就職内定率は、年を越さぬ平成30年12月に早々と、6年連続100%を達成することができました。都会にある大学では真似のできない地域実践教育を通して主体的に学び、地元でも、また日本中どこに行っても、あるいは海外でも通用する力を身に付けて欲しい。本学の、経済学、経営学はもちろん、文化経済学、そしてそれを支える教養、語学もしっかり学んで、変化の激しい現代社会を力強く生き抜く人間になって欲しい、そのことを切に願っています。

「社会で活躍できる人づくり」を目的とするウィザースと提携した本学は、その使命であり、地域社会に対する約束でもある「社会に貢献する人間の育成」をこれからも一層強化します。また、学びの多様化に因應する取り組みをウィザースと行いながら、様々なニーズを取り込み更なる飛躍を目指します。今後本学の発展に向け全力で取り組む所存ですので、校友会会員の皆様のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。ご次第です。

新旧会長ご挨拶

新時代への
転換・維新を

前会長 小栗 俊郎



7月一枚の葉書きが来ました。病から復活をした短4期・関東支部事務局長歌代逸郎さんからでした。「望郷の念抑えきれず老体に鞭打ち350キロの横須賀から強行ドライブ。ふると柏崎の風景をもう一回見たい」と。母校も故郷も忘れない想いに涙が出ました。

19年間校友会活動に関わりました。柏・刈支部副支部長2年。支部長2年。本部副会長9年、会長6年。その間、学校法人柏専学院評議員5年、理事3年、副理事長2年。新潟短期大学、新潟産業大学の歴史、変遷と共に歩ませていただき、多くの事を学び、たくさんの方々にお世話

になりました。

折しも学校設立71年の節目。地域、学生、卒業生、教職員等すべてに尊い歴史があります。

学びの場を通し、地域をおこし、地域を変えていくことは重要です。

私は昭和34年入学。学校は比角(現理工工場内)で学びました。校舎は安田へそして軽井川地内に現在の新潟産業大学が誕生しました。たくさんの方が育っています。

校友会も脈々と歴史を重ね、活動を展開しています。建学の精神を忘れず世代交代の流れをふまえ前進したいと考えます。

・若い人へ伝える、残す努力が重要。育て、伸ばし、はばきたいもらう事。

・支部の充実と本部との積極的交流。

・大学当局との積極的情報交換と発信。

・卒業同期との交流等促進。

これらが校友会前進や大学の充実発展につながります。恐れず、わろびれず、堂々と活動を展開して欲しい。

新会長内山和博氏の熱い校友会への想いを受けとめ支援したいと思えます。

長い間、大変ありがとうございました。

新会長に推薦されて

新会長 内山 和博



平成30年10月20日に開催されました新潟市での本部定期総会で現会長小栗俊郎様が勇退され、新会長に推薦されました内山和博であります。新潟短大17期卒業であります。

新潟産業大学校友会の活動には、現役の時は参加することが少なく申し訳なく思っております。定年退職後、諸先輩、同僚、後輩に参加を勧められ自分なりに参加してまいりました。

活動としては、柏崎刈羽支部の幹事が最初と記憶しております。その後は、同支部の事務局長、支部長、本部役員の副会長等を経験してまいりました。柏崎刈羽支部の支部長、本部の副会長の仕事も先輩からお聞きして何とか任期を全うできるかなと思ひ、安堵していた時期に本部の事務局長という大役をお願いされ、正直できないと思い丁重に辞退した

経験があります。しかし、諸先輩、同僚に幾度なくお願いされ引き受けました。しかし、引き受けたからにはやらなければならぬと、頑張りました。今後は、一会員として校友会を応援しようと思っていたのが正直の気持ちでありました。本部総会で、推薦され出席者の会員多数の賛成を受けてまた頑張らなければと思います。

今、わが母校新潟産業大学は非常に厳しい状況にあります。この状況を再認識して発展を目指していかねばなりません。そこで、私は方針として次の内容を実践し、努力したいと思ひます。

第1は、各支部の役員と連携を行い、支部間の交流、情報交換。

第2は、支部と本部との連携強化、特に情報・活動の強化。

第3は、新潟産業大学、新潟産業大学父母の会、校友会の3団体の定期的に情報交換する時間を設定、協議を実践する。

いずれも、私の力は微力でありますが会員の皆さん、支部の役員の皆さん、大学、父母の会の関係者と一緒に頑張ります。

皆さんのご協力、ご理解をお願いして、就任の挨拶といたします。何卒、今後もよろしくお願いいたします。

『N・S・U〜新潟産業大学公式カレッジソング〜』 楽曲制作に込めた想い。

シンガーソングライター 松井まさみち
—一九九九年新潟産業大学卒業生(第8期)

僕が新潟産業大学へ入学したのは1994年春の事でした。夢にまで見た大学生活。全てが輝いて見えました。キャンパスには学生が溢れ、学食、カフェテリア、売店はどこも活気に満ちていました。

すぐに行動を共にする仲間ができ、サッカーサークル『ST BURN』を仲間と作り、毎日走り回っていました。

特に、1年目に見た新潟柏崎の雪は他県出身の僕達には衝撃的で、同じアパートの仲間と「かまくら」を作り大はしゃぎしたのを鮮明に覚えています。

そんな大学1年生の時に友人の部屋にあったギターをボロンと弾いて歌を歌った瞬間「あつ歌手になろう。」と閃き、そこから在学中にも東京でオーディションをたくさん受け、わたじん楽器でアルバイトを始め、プロのミュージシャンを目指しました。

音楽に夢中になって、5年間大学生生活を過ごさせてもらいました(笑)

卒業論文は『日本歌謡音楽史』を提出。僕の青春は柏崎と共にありました。卒業後、東京の会社に就職をして、

ミュージシャンを目指しました。

しかしながら会社員との両立は難しく、会社を辞め、アルバイト生活しながら、ライブ活動をする中、二人の仲間と出会い、三人組アコースティックバンド『三叉路』を結成。三叉路としてひたすらコンテストを受け、2006年、『NHK熱唱オンエアバトル』で全国チャンピオンとなり、ついにメジャーデビューの夢を叶えました。

その年ツアーで新潟長岡のライブハウスでライブをした時、ほとんど宣伝もしていなかったのですが「新潟産業大学の廣川です。大学全部で君の事、応援しているよ」と廣川先生がいらして下さったのです。僕の事を覚えてくださっていた事に本当に驚き、感激致しました。

そして、三叉路として第22回紅葉祭のメインステージに呼んで頂き、学生達の「松井先輩、お帰りなさい!」の声援に、大変感動しました。

そんな中、年々学生達が減ってしまっていると同じでした。

2017年9月に廣川先生がご逝去され、急な知らせに何もご恩返しができなかった事が悔やまれました。『何

か大学の為に出来ることはないか』と考えた時に、僕には音楽しかない。廣川先生が応援して下さいった音楽で出来ること。「プロのミュージシャンとして大学のイメージソングを作ろう!」と思い立ちました。

新潟産業大学での学生生活の楽しさが伝わるような曲にしたいと思い、みんなにすぐ覚えて口ずさんでもらえるようなメロディー、楽曲アレンジを目指し、歌詞作りには学校の教職員の皆様、学生の皆、地域の方々から「産大の良いところ」をキーワードご協力を頂きました。

日本語の歌は、英語、中国語、韓国語、モンゴル語へと翻訳して頂いたのが、世界からの留学生、未来の仲間にも届くと思います。

『N・S・U』が、廣川俊男先生と母校への恩返しになれば幸いです。

卒業生、関係者の皆様、

新潟産業大学イメージソングが一人でも多くの方に届き、また各地から学生達が来て再び活気あふれる大学になる様、応援宜しくお願い致します。



新潟産業大学の芸術文化部が10周年

平成30年11月18日(日)に柏崎市の産業文化会館の文化ホールで芸術文化部の「10周年集大成―振袖乱舞 舞踊剣の切れ味」が開催されました。

この10周年集大成は、新潟産業大学の芸術文化部が舞踏家の花音紅香先生を講師に、同大学で学んでいる留学生と日本人学生を対象に踊りを学ぶことをもちろん、日本の文化を学び、交流を深めてきた実績があります。

今回、10周年集大成と銘うって留学生と学生の成果を披露したものであります。

同部の顧問であります蓮池薫准教授は、挨拶のなかで「花音紅香先生にはこの10年間で60人の留学生を指導して育てていただいた。留学生は自分の国へ戻っても日本の文化を自慢しながら伝えていくと聞きました。部員達は多少緊張気味ですが、じっくりご覧下さい。」と開会しました。

演題は、トップに花音先生の「扇獅子」で幕を開けました。続いて中国の留学生4人の「ひばりの佐渡情話」、「夜桜お七」、「花のワルツ」の3つが披露された。「剣山・剣術」、「大利根無常」、「比叡の嵐 棒術」は日本の学生、「侍につぼん」の踊りを披露したアボスさん(1年生・ウズベキスタン出身)はむずかしい日本刀を巧みに操りながらきびきびした踊りで観客を魅了した。

また、中国人留学生のサイシリン、リンジョエ、ジョホウウン、オンキングの4人とモンゴル留学生チンスガの踊りも見事だったと思います。

また、当日は留学生と一緒に10年間頑張ってくれましたOBが5人も駆けつけてくれたことに、花音先生、顧問蓮池准教授も感激しておりました。

途中で、花音先生が「日本には素晴らしい文化がある、日本人が文化を守り、学ぶべきではないか、アメリカの後を追いかけるのではなく、日本のことに目を向けるべきである」と挨拶しました。本当にそのとおりではないでしょうか。

演題は、最後に花音先生の「松の緑」、そしてご主人花音大輔先生の「獅子舞江戸神楽」で終了したが、19の演題が披露されて終了しました。

最後に、花束贈呈で日ごろから芸術文化部を応援・補助している新潟産業大学の校友会の事務局長内山和博さんが、本日の10周年集大成のお祝に駆けつけ、ご主人、生徒、留学生、OBがステージに並んでいるところに花束をもって花音先生に「花音先生おめでとう、大変すばらしかった」と差し上げました。今後の活躍を応援します。

本年の11月30日に再度集大成の踊りを開催します。ご期待ください。

文責 内山和博(事務局)



創部30年を迎えた新潟産業大学水球部

新潟産業大学水球部監督

佐々木洋輔

新潟産業大学校友会から本学水球部への多大なるご支援、いつも感謝しております。1988年に4名の部員から始まった水球部は、今年で創部30年を迎えました。水球部はいまでは、男女50名程度の規模となり、海外出身の選手も所属する部活となっています。また、水球部の選手は、大学の部活動に加え、柏崎市の「水球のまち推進室」発信の活動や、本学水球部と併せて所属するブルボンウォーターポロクラブの選手としての活動などを介し、「水球のまち柏崎」を盛り上げるべく、多岐にわたって活動を行っています。

創部30年となる今年度、本学水球部は、男子チームが26年連続となるインカレ出場、インカレベスト8、日本選手権ベスト8、また、女子チームがインカレベスト8の成績を収めました。また、日本選手権において、ブルボンKZ（ブルボンウォーターポロクラブのトップチーム）の男子チームが6年ぶり2度目の優勝を果たしましたが、男子チームのメンバーには、本学の関係者が合計7名（現役学生が3名、本学卒業生が4名）含まれていました。

創部30年の節目の年において、本学関係者7名が日本一に輝いたことは、大変嬉しく思います。今後も、本学の益々の発展のために、水球部として少しでも貢献出来たら幸いに思います。

日本一に輝いた本学関係者

大森史皓（本学1年次、写真右端）、小川尊（本学2年次、写真右から2番目）、林和希（本学卒業生、写真右から5番目）、津崎翔吾（本学卒業生、写真右から6番目）、青柳勸（本学水球部前監督・本学大学院卒業生、写真左端）



▲ブルボンKZ優勝パレードの様子
平成30年10月26日
（株）ブルボン本社前（新潟県柏崎市）



本学水球部集合写真
平成30年10月

ブルボンKZ ブルボンウォーター

▼ポロクラブ集会後（新潟県柏崎市）



新潟産業大学に学ぶ学生達の活躍

2月2日(土)、柏崎市産業文化会館文化ホールにおいて「平成30年度柏崎市体育協会優秀体育人表彰式」が行われ、本学3組、個人9名の学生が受賞しました。

この表彰は、一般財団法人柏崎市体育協会が、優秀な競技実績をあげ柏崎地域の体育・スポーツ振興に功績のあった団体や個人に対し毎年行っています。

本学からは、「優秀競技者賞」3団体・1名、「競技者賞」8名の学生達が受賞し、ステージ上で賞状を授与されました。



優秀競技者賞



【水 球】

〔男子〕『第94回日本学生選手権水泳競技大会〈水球競技〉男子 第8位』

- 小宗展大(4年)、金子将之(4年)、北澤知大(4年)、松岡侑(4年)、北村昇平(4年)、石山真吾(4年)、山本博斗(3年)、山本龍(3年)、高橋堅登(3年)、薦祥帆(3年)、阿保悠斗(2年)、新田一景(2年)、高田勇希(2年)、蔭田渉吾(2年)、ブランドリー イグナティウス レガワ(2年)

〔女子〕『第94回日本選手権水泳競技大会〈水球競技〉女子 第4位』

- 梅村香穂(3年)、井上すす(1年)、新藤汐砂(1年)、前野理緒(1年)、宮川華音(1年)

※ブルボンウォーターポロ柏崎・女子に所属し出場



【ライフセービング】

『第31回全日本ライフセービング・プール競技選手権大会4×25mマネキンリレー 第4位』

- 片山雄起(3年)、関悠矢(3年)、加藤豪(2年)
- 加藤豪(2年)『第44回全日本ライフセービング選手権大会ボートレース 第2位』

※以上柏崎ライフセービングクラブとして出場





競 技 者 賞



【空 手 道】

- 錦織奨（４年）『第44回北信越学生空手道選手権大会男子個人組手 第1位』

【卓 球】

- 齋藤駿介（４年）『平成30年度夏季北信越学生卓球選手権大会男子シングルス 第1位』
- 田代寿幸（２年）『平成30年度夏季北信越学生卓球選手権大会男子シングルス 第2位』
- 深沢大晴（３年）『平成30年度夏季北信越学生卓球選手権大会男子ダブルス 第2位』
- 中島知輝（２年）・吉井大樹（２年）『第66回秋季北信越学生卓球選手権大会男子ダブルス 第2位』
- イムソンミン（３年）・田代寿幸（２年）『第66回秋季北信越学生卓球選手権大会男子ダブルス 第3位』



運営年会費の納入御礼とお願い

校友会員の大勢の皆様から、運営年会費を納入して頂きありがとうございました。みなさんの暖かい気持ちに支えられていることに改めて感謝し、厚く御礼申し上げます。

ご承知のように、運営年会費は校友会報の発行費用や各支部の運営補助金など活動資金の支援費として使用されております。また、会報も内容を更に充実させ、皆様から愛される校友会報にしたいものと頑張っております。

諸事ご都合もおありかと思いますが、是非とも、このような趣旨をご理解頂きご協力よろしくお願い申し上げます。

新潟産業大学基金のお願い

新潟産業大学では、教育研究活動全般の充実・発展を図るため、広くご寄付をお願いしております。

寄付金は、地域高等教育の府として社会的責任を担う本学にとって、学費や補助金に次ぐ、第三の収入といえるものです。いただきましたご厚志は、「地域社会や企業を主体的に支える人材の育成」という本学の教育理念の達成のために活用させていただきます。何卒、皆様の格別のご支援をお願い申し上げます。

募金要項

- 募金の金額 一口 5,000円(複数口をいただければ幸いです。)
- 募金の払込方法 同封の「青色の振込用紙」にご記入のうえ郵便局からお振込下さい。
- 寄付金控除について 所得税の寄付金控除の措置を受けることができます。
- 寄付者名簿の公表について ホームページ、学報等で寄付者の御芳名を公表することに同意される方は、振込用紙通信欄にその旨チェックをお願い致します。

※ご不明の点は、新潟産業大学総務課まで。
総務課 TEL 0257-24-6655

新潟産業大学の就職状況(就職課資料より)

2018年度 就職行事 拝見



●メイクアップ講座(平成30年11月)



●求人票活用講座(平成30年11月)



●言語・非言語WEBテスト(平成30年12月)



●就職活動集中対策講座(平成30年12月)



●資格取得等奨励奨学金授与式(平成31年1月)



●企業研究セミナー(平成31年2月)



●就職活動出陣式(平成31年2月)

就職内定状況

1月末日現在の内定状況は下表のとおりで、全体の内定率100.0%です。

経 済 学 部				
		男 子	女 子	合 計
今 年 度	内定率（％）	100.0％	100.0％	100.0％
	内定者数	60	20	80
	上場企業内定率（％）	5.2％	0.0％	3.8％
	上場企業内定者数	3	0	3
	就職希望率（％）	96.8％	90.9％	95.2％
	就職希望者数	60	20	80
	卒業予定者	62	22	84

注1：外国人留学生を除く

注2：内定率 (%) = 内定者数 ÷ 就職希望者数

注3：就職希望率 (%) = 就職希望者数 ÷ 卒業予定者数

注4：上場企業内定率 (%) = 上場企業内定者数 ÷ (全内定者数 - (公務員合格者数 + 個人経営家業内定者数))

支部だより

**未来を創るダイナミズム…
若手に「大政奉還」を宣言！**

長岡支部長

樋口 栄治 (短18期)

新潟産業大学校友会は、「短期大学世代と4年生大学世代」の混合・融合された会員組織として運営されておるために、当然ですが「OB意識」にジェネレーションギャップ(世代・価値観の違い等)が見られます。

また、激動する世界の秩序・枠組み並びに国内においても「少子高齢人口減少社会」に適合するため現状の組織体では難題を解決してゆくイノベーションを実現することは不可能に近いと思います。

「若者」が、自ら歩き、走りながら思考して取り組むことが必須のことです。

昭和63年4月開学以来(第1期生は50歳余)30年の歴史の中に、卒業生の社会参加と活躍並びに地元企業の採用により地域人材として定着してきていることは誇るべきことであります。今後、長岡支部は、下記により「新

潟産業大学卒業生」に引き継ぎます。

1、開学30年を契機として「新潟産業大学卒業生」の会員に事業運営の全てを移管します。

2、その期日は、元号が変わる平成31年4月30日までに移行します。

3、長岡支部の名称は「表看板」として、新潟産業大学卒業生OB・OGが、結集しやすく、活動しやすい、新しい時代に沿った「柔らかな組織」を創造されることを期待します。

4、「財産・会計等」は、平成31年4月30日付で正式に引き継ぎます。

5、平成30年9月2日定時総会から平成31年4月30日までは、「リレーゾーン」として、現在の全役員は、その責任において全面的に支援することを誓約いたします。



妙高支部総会開催

妙高支部長

瀬戸 満雄 (短13期)

発足後7回目となる支部総会を昨年11月10日に、矢代ふれあいの里「友楽里館(ゆらりかん)」を会場に開きました。

2年に1回の総会は例年夏に開催していましたが、私の体調不良で秋になりました。小栗会長が最後のご出席になられるであろうとの思いもありました。

当日は校友会本部から、会長、事



務局長をはじめ他支部長様ら来賓7名をお迎えし、会員の参加は11名(会員の15%)でした。

残念なことに、今回初めて大学からのご参席はありませんでした。

事業報告では、平成28年に初めて支部役員会を開き、これまで8回開催し意義があったこと、大学法人化の取り組みや創立70周年記念事業関連などが主なもので、決算、活動計画ともに承認されました。

役員改選がありました。女性の就任1名は残念なことでした。

懇親会は、地酒が好評で盛り上がりしました。

これから、女性と青年層をどう取り込んでゆかが大きな課題です。

柏崎・刈羽支部定期総会開催

柏崎・刈羽支部

内山 和博 (短17期)

平成30年度は、総会開催の年度であります。当支部は従来毎年総会を開催していましたが、平成29年度の常任幹事会で総会は2年に1回と決定し、本来なら7月に開催予定でありました。

また、本部定期総会の開催等諸般の都合により、12月8日に柏崎産業

文化会館で開催いたしました。

当日は、来賓として北村新潟支部長様、蓮池新潟県央支部長様、佐藤長岡支部副支部長様、同支部田村事務局次長様をお迎えして開催しました。

議事の内容は、平成29年度の事業報告、決算報告、会計監査報告の説明を行い、続いて平成30年度の事業計画、予算計画を説明していずれも原案通り承認されました。次に役員改選について昨年から本年度の状況について説明、承認をいただいた。今後は、新役員体制が三役会議を随時に開催して早急に新体制を立上げ、活動開始を目指すことを併せて承認をいただき、平成31年度は常任幹事会を開催して報告、協議となります。

その後は、懇親会を開催して各会員の情報および協力をお願いして、また来賓の皆様にお礼を申し上げ、総会を終りました。

「第11回新潟産業大学16会」同級会開催

北村 稔 (短16期)

8月30日(木)「第11回新潟産業大学16会」同級会を長岡市内で開催しました。

当日は曇り空の中、遠くは新潟市

から、そして地元長岡の13名が参加しました。

2年ぶりの開催とあって、懐かしさと和やかな雰囲気の中、会話と笑いにいつまれました。

「歳をとったな」「○○さんは痴呆になったや」「いつどうなるかわからんからの」など高齢化に対する話が飛び交いました。

70歳を超えて今だ仕事を継続している会長・社長が4人もいました。次回同級会開催は2年後のオリンピックを最後に解散しようと決議されました。

最後の同級会は長岡グランドホテルで、今まで参加出来なかった方々を手分けして呼んで大勢の参加を促し盛大に開催しようとボルテージが上がりました。

そこで必ず登場するのが「次はコンパを呼ぼう」と酒が入った時に威勢のいい声は聞かれるがいつも掛け声だけで、いつ実現するやら。

次回を最後に長岡グランドホテルで有終の美を飾りたいと、再会を誓い合い解散しました。



短18期「卒業50年記念」同期会を開催

品田 眞弘 (短18期)

18期同期会は3年ごとに開催される校友会総会に合わせて「メトロポリタン松島」で開催してきましたが、今年の総会が新潟市での開催となったため、今回やむなく「シーユース雷音」(旧ユースホステル)で総会前の9月21日(金)に開催しました。

卒業50年の記念同期会ということから今回初めて希望者による「ゴルフコンペ」を開催。名門石地カントリークラブには午前9時ころ4人の精鋭が集結。佐渡がくつきり見える絶好のコンディションの中で、和気あいあいのプレーを思う存分楽しみました。

本番の同期会は午後6時からシーユース雷音で開催。特別参加の内山事務局長さんを始め遠くは東京、埼玉、千葉、群馬から、また下越からは初参加の2人の女性陣も加わり総勢18名の賑やかな同期会となりました。

まず全員で記念撮影。再会を祝しての乾杯のあと、酒で酔いが回ったところで恒例の「参加者全員による一言スピーチ」が始まると、会場は一段と盛り上がり、それぞれの思いや人柄が心に伝わってきます。

中には短大時代の「熱き恋の告白」

も飛び出すなど同期会は最高潮に。二次会は幹事の部屋に全員集合。差し入れのお酒やぶどうをいただきながら時間の過ぎるのも忘れて熱く語り合うなど、とても古稀とは思えない熱気に包まれた大満足の日が過ぎ去りました。

翌日は希望者だけで市内観光。越後の「酒彩館」やドナルドキーンセンターを見学し、お昼は「盛来軒」で昔懐かしい醤油ラーメンを食べ解散となりました。参加してくれた皆さんに改めて感謝です。

次回は3年後、規模縮小で開催予定です。



平成30年度の動き

☆本部定期総会 10月20日(土)

新潟市 新潟東映ホテル
 総会・事業報告・財産目録・事業計画・収支予算実績表の説明
 講演会・演題「動く北朝鮮情勢と拉致問題」講師 蓮池薫准教授様
 ☆本部定期役員会 5月19日(土)

柏崎市 柏崎産業文化会館
 事業報告・収支決算・会計報告・事業計画・収支予算・本部定期の開催説明
 ☆支部長・事務局長会議 8月25日

(土)
 新潟市 七福
 定期総会開催・他支部活動状況・運営年会費納入状況等の説明
 ☆本部役員会議 12月15日(土)

新潟市 一善
 定期総会の総括・来年度の活動方針等協議
 ☆青年部役員会議 7月28日(土)
 収支報告・会計監査報告・活動計画・収支予算
 ☆各支部の総会開催日・内容は次のとおりです。

・長岡支部 9月2日(日)
 新潟市 アトリウム長岡
 活動報告・収支決算・会計監査報告・活動計画・収支予算・役員改選

講演会・講師稲川館長「長岡開府と歴史遺産の継承」
 妙高支部 11月10日(土)

妙高市 矢代ふれあいの里
 活動報告・収支決算・会計監査報告・活動計画・収支予算
 柏崎刈羽支部 12月8日(土)

柏崎市 産業文化会館
 活動報告・収支予算・会計監査報告・活動計画・予算・役員改選

☆各支部の役員会・幹事会は次のとおりです。

・新潟支部 4月14日(土) 新潟市 とん八
 新潟産業大学各行事報告・本部総会開催の検討等
 ・本部定期総会開催打合せ 4月18日(水)

新潟市 新潟東映ホテル
 総会会場・会議・懇親会関係確認と会場見学等
 ・新潟支部 6月30日(土) 新潟市 とん八
 本部定期総会関係打合せ・各支部取組状況等

・上越支部 7月13日(金) 上越市 きんたろうはうす
 本部定期総会の取組打合せ・活動報告・決算報告・活動計画・予算等
 ・新潟支部 9月8日(土) 新潟市 とん八

新潟東映ホテルの関係報告・各支部参加状況報告・その他
 ・新潟支部 31年1月12日(土) 新潟市 安兵衛

本部定期総会総括・支部総会開催打合せ・今後の日程等

平成31年度予定される動き

☆本部役員会 6月中旬

柏崎市 産業文化会館
 ☆支部長・事務局長会議 9月中旬 新潟市

☆各支部の総会予定は次のとおりです。

・新潟支部 7月 新潟市
 ・佐渡支部 9月 佐渡市
 ・新潟県央支部 10月 三条市
 ・魚沼支部 7月 魚沼市
 ・上越支部 9月 上越市
 ・関東支部 9月 東京都
 ・長野支部 11月 長野市
 以上13支部のうち7支部が予定されます。

☆各支部の役員会・幹事会は次のとおりです。

・新潟支部 4月 新潟市
 ・柏崎・刈羽支部 6月 柏崎市
 ・長岡支部 5月 長岡市
 各支部の役員の皆様、総会・役員会の予定を本部にご連絡ください。

事務局だより

昨年度の平成30年度は3年毎の開催であります「本部定期総会」を開催場所を柏崎市から、新潟市に変更して10月20日(土)に会員130名が参加して開催いたしました。

総会終了後は、准教授 蓮池薫様の講演会を開催し、北朝鮮情勢と拉致問題について講演をいただきました。

平成31年度も会員皆様のご協力、ご理解をお願いいたします。



編集後記

平成30年度は本部定期総会の開催で各支部にお世話になりました。おかげ様で無事終了いたしました。平成31年は4月で終わります。2019年度もよろしく願っています。今後も皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

内山和博 (短17期)